



名張市学校図書館だより小中学校版「子ども読書の日編」 発行：教育センター

4月23日は『子ども読書の日』です！

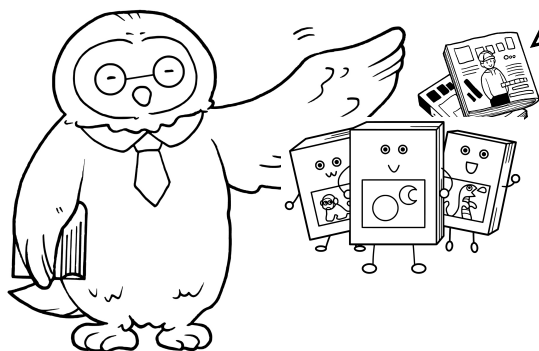
1959年に「子どもたちにもっと本を！」との願いから「こども読書週間」がはじまりました。そして、2000年から、4月23日～5月12日（20日間）が「子ども読書週間」になりました。第60回2018年度のこども読書週間の標語は『はじまるよ！本のカーニバル』です。

ほぼ横ばいが続くものの、全体を見ると増加傾向

全国学校図書館協議会と毎日新聞が毎年行っている小中高校生の読書冊数の調査「学校読書調査報告」では、以下のように報告されています。（学校図書館2017年11月号による）

■平成29年5月1ヶ月間の平均読書数

- ・小学生 11.1冊（昨年度11.4冊）0.3冊減
- ・中学生 4.5冊（昨年度4.2冊）0.3冊増
- ・高校生 1.5冊（昨年度1.4冊）0.1冊増



過去31回分の調査を見ると、高校生がほぼ横ばいなのに対して、小中学生は増加傾向にあります。（小学生7.4→11.1冊、中学生2.3→4.5冊、高校生1.4→1.5冊）最近人気のあるシリーズ物（サバイバル・学校では教えてくれない大切なこと・ぼくら等）が多数発行されており、名張市小中学校においてもこれらのシリーズの貸出数が増えています。これらをきっかけに、他の本に挑戦してみるなど、読書への興味関心が高くなっている児童生徒がしだいに増えてきています。

うちどくの ススメ



保護者の習慣は、必ず子どもが真似をしたくなります。ぜひ、家庭での読書を習慣として身につけましょう。

「家読（うちどく）」とは、「家庭読書」の略語で、学校での「朝読」の家庭版として考えられたものです。読書を通じて子どもとふれあうことで、共通の時間・共通の話題作りのきっかけにもなります。

①家族で話し合い、「うちどくの日」を決める。

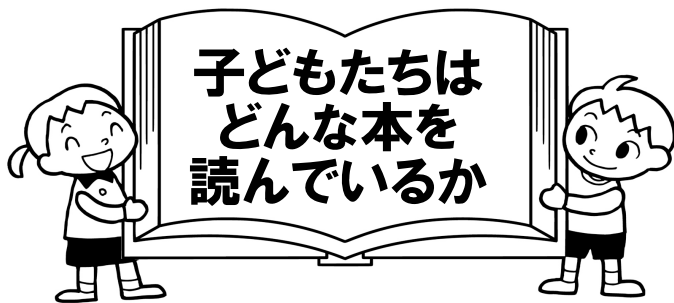
家族の記念日や毎月1日など、決まった日を設けます。定期的でなくても構いません。

②家読用の本を用意する。

学校の図書室で借りたり、市立図書館などに一緒に借りに行ってみましょう。

③「うちどくの日」はノーテレビ・ノーゲーム。

本を読む時は、静かに本に集中することが大事です。光や音の刺激は極力避けましょう。



全国学校図書館協議会発行の雑誌『学校図書館』2017年11月号に、5月の1ヶ月間に小4～中3の子どもたちが読んだ本のランキングが載っています。その中から上位10冊ずつ紹介します。

小学校4年生		小学校5年生		小学校6年生	
ロボット世界のサバイバル	ヘレン・ケラー	地中世界のサバイバル	ヘレン・ケラー	日本の歴史	君の名は。
かいけつゾロリのじごくりょこう	いるのいないの	かいけつゾロリの王子さまになるほうほう	アンネ・フランク	転んでも、大丈夫 ぼくが義足を作る理由	ひるなかの流星
かいけつゾロリ カレーVS ちょうのうりよく	くろねこのどん	エジソン	ナイチンゲール	霧のなかの白い犬	アンネ・フランク
ミッケ!	耳の聞こえないメジャーリーガー ウィリアム・ホイ	昆虫世界のサバイバル	アルプスの少女ハイジ	チキン!	シャーロックホームズ シリーズ
昆虫世界のサバイバル	空に向かってともだち宣言	ぼくのニセモノをつくるには	キュリー夫人	ぼくたちのリアル	ナイチンゲール
中学校1年生		中学校2年生		中学校3年生	
君の名は。	ひるなかの流星	君の名は。	君の臓腑をたべたい	この素晴らしい世界に祝福を! ①	君の臓腑をたべたい
ソードアート・オンライン①	告白予行演習	ぼくらの七日間戦争	ひるなかの流星	この素晴らしい世界に祝福を! ②	ひるなかの流星
名探偵コナンから紅の恋歌	君の臓腑をたべたい	ソードアート・オンライン①	ぼくは明日、昨日のきみとデートする	ハリー・ポッターと炎のゴブレット	ぼくは明日、昨日のきみとデートする
青鬼 復讐編	orange①	図書館戦争	一週間フレンズ。映画ノベライズ	君の名は。	か「」く「」し「」ご「」と「」
空想科学読本③	予告予行練習ヤキモチの教え	この素晴らしい世界に祝福を! ①	青空エール	この素晴らしい世界に祝福を! ③	また、同じ夢を見ていた

小学校は例年より課題図書が多かったように見受けられます。名張市内でも『霧のなかの白い犬』（あかね書房）は表紙の犬がかわいいと、高学年女子に人気でした。中学校は例年通りライトノベルや映画ノベライズが人気です。また、このランキングには出ていませんが、『学校では教えてくれない大切なこと』（旺文社）シリーズが名張市内でかなりの人気になっています。特に12巻の『ネットのルール』は大人でも説明が難しいインターネットのトラブルについて分かりやすく書かれているので、ぜひ家読で一緒に読んでみてはいかがでしょうか。